

POINT 3 充実の巻末資料

見やすい、わかりやすい技法資料

高校の美術で使われるほぼすべての技法を掲載しました。

他にも〔共通事項〕に関する資料、発想の広げ方や美術史など、必要なときに参照できる資料を網羅しています。

編集部
ここがこだわり！

技法のポイントがひと目でわかるように、レイアウトや写真の見せ方を工夫しました。

QRコードで動画を確認

QRコードから、動画で技法を確認することができます。

➡ 詳しくは本資料 P.15



平筆をスタンプのように使って所を描くこともできる

水彩絵の具で描く

水で溶かして使う水彩絵の具は、最も身近な絵の具だ。水の効果や筆の使い方によって多彩な表現ができる。使い方を工夫して、さまざまな表現に挑戦しながら、身の回りの風景などを描いてみよう。

吹き出しでワンポイントアドバイス

各手順のポイントを、吹き出しでわかりやすく示しました。

手順を横一列で

技法の手順がひと目で捉えられるよう、横一列で示しました。

使う用具をわかりやすく

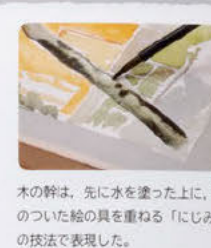
その技法で使う用具を一点ずつ撮影し、整理して配置しました。



ラフスケッチをして、構図を決めておく。レンガの建物と、建物や地面にかかる木立ちを通した光を描きたい。



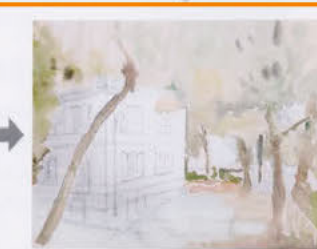
おおまかに色を置いていくときには、筆を長めに持つとよい。全体の統一感を意識して配色する。



木の幹は、先に水を塗った上に、色のついた絵の具を重ねる「にじみ」の技法で表現した。



①鉛筆で下描きをする
水彩絵の具は描き直しが難しいので、下描きの段階で、しっかり形を取っておく。色を塗る前に余分な線は消す。



②空や遠景を下塗りする
描き始めは、空や遠景、手前の暗くなる部分など、大きな面に薄く溶いた絵の具でおおまかに色を置いていく。



③中心のモチーフを描く
下塗りの絵の具が乾いたら、近景と中心となるモチーフに色を入れていく。いちばん明るい部分は白く残すようにする。



④樹木や陰影に色を重ねる
タッチや色を変化させることで、樹木の種類や葉の形の違いを表現する。影には他の場所に塗った色を使うと、全体のバランスが取れる。



⑤細部を描き込む
下の絵の具が完全に乾いてから、細筆で細部を描き込む。建物と地面が接する部分を丁寧に描くことで、画面の安定感が増す。

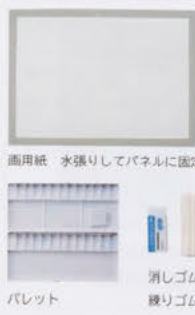
⑥完成

制作時間は約5時間。B3判(36.4×51.5cm)の画用紙に描いた。完全に乾いた後、水張りで使用したパネルから外した。



レンガの境目の筋は、平筆を縦にして、スタンプのように使うことで表現した。

>> 主に使用する用具



>> 水張りの方法



>> 色をつくる



>> 水彩絵の具の技法



巻末資料 目次

- ◎さまざまな絵の具
- ◎鉛筆で描く **A**
- ◎水彩絵の具で描く
- ◎油絵の具で描く
- ◎アクリル絵の具で描く **B**
- ◎日本画の絵の具で描く
- ◎版画の技法 **C**
- ◎彫刻(塑造)の技法
- ◎文字をデザインする
- ◎写真を撮影する
- ◎映像を撮影する
- ◎発想の広げ方
- ◎美術館を楽しむ **D**
- ◎美術鑑賞を楽しむ手がかり
- ◎美術史年表 **E**
- ◎デザイン史・写真史年表 **F**
- ◎色の特徴を知ろう
- 色の性質
- 色の効果
- 配色のヒント
- ◎切り離し式資料
- 混色のヒント
- 色彩図鑑

表現・鑑賞
すべての題材に関連する
色の資料がパワーアップ!
[詳細は次ページへ。]

切り離し式資料「混色のヒント&色彩図鑑」

新版教科書は、新学習指導要領で重視されている〔共通事項〕の学習に役立つよう、色に関する資料を豊富に掲載しています。

巻末には切り離し式の資料をご用意しました。

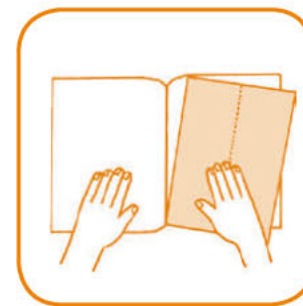
表現・鑑賞
どちらにも使える
色の資料
が大充実！



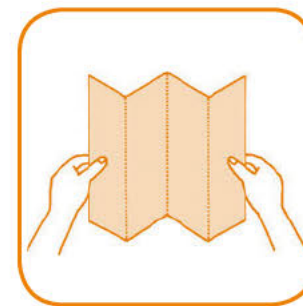
表面

混色のヒント

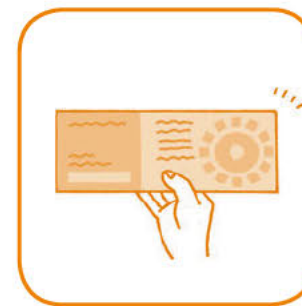
色相環を意識して、
どのような色になるかを考えるための資料です。



1
切り離す
ミシン目に沿って、
教科書から
切り離します。



2
折りたたむ
点線に沿って
折りたたみます。



3
活用する
絵を描くとき、
ポストの配色を
考えるときなど、
さまざまな場面
でお使いください。



コンパクトだから、気軽に活用できる

コンパクトなので、絵の具セットと一緒に保管し、
制作の際にすぐ取り出して活用できます。

裏面

色彩図鑑

色名やその由来がわかる

「日本の伝統色」「西洋の伝統色」を
対比して掲載。

色を選ぶときのヒントになるほか、
色名の由来も知ることができます。



茜色 あかねいろ
アカネはアイと並ぶ最古の
植物染料。根が染料となる。

スカーレット
ペルシア語の西染めの織物
が語源といわれる。

